

心のつながりシート



～姉妹校盟約40周年記念～ 距離を超えた児童の交流で絆を深める

9月18日（金）、北区立東十条小学校の全校児童474名が、インターネットを經由して、鹿児島県与論小学校の児童47名とテレビ会議システムで交流を行いました。

東十条小学校の6年生児童は「北区」についてクイズ形式で紹介。「2021年に放送予定の大河ドラマの主人公は誰でしょう？」と問いかけたクイズに、与論小学校の児童らが「渋沢栄一！」と元気に答える様子が見られました。与論小学校の児童は合唱を披露するなど、お互いの文化に触れ合い、両校の児童たちには笑顔があふれ、充実した時間を過ごしました。



東十条小学校は、鹿児島県最南端にある与論島の小学校3校（与論小・茶花小・那間小）と昭和55年から姉妹校盟約を結んでおり、毎年、習字や絵などの作品交換交流や各年の訪問交流などで絆を深めています。今年は姉妹校盟約を結んで記念すべき40周年の節目。児童同士の訪問交流や記念式典を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症対策の影響で、テレビ会議システムにて交流を行うことになりました。

この日、東十条小学校の体育館には大きなスクリーンが用意され、同校の6年生児童が与論小学校の児童らとテレビ会議システムを通して交流しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、他の学年は教室から中継を観覧しました。実際には約2,000kmも離れた両校の距離を感じさせない充実した交流となりました。参加した東十条小学校の6年生女子児童は「練習の時は、声が小さかったり、話すのが早かったりしましたが、先生や友達のアドバイスで本番では上手に話すことができました。遠く離れている与論島の児童の声を聞けたり、クイズなどで交流することができたりして楽しかったです。」と交流に満足した様子でした。

異なる環境の子どもと触れ合い、学び合うことができるこの交流は、東十条小・与論島の両児童に必要なことだと思います。これからも与論島とのつながりを大切にしていきたいです。